

パラメトロン式 ARQ 装置

KDD は、会社発足当初から、テレックスや電信専用回線に ARQ 方式（自動誤字訂正機能）を導入するとともに、装置の国産化を推進し、1956 年（昭和 31）に全電子管式 ARQ を完成させた。さらに、安定小型化を図って研究を進め、58 年にパラメトロン素子（54 年、東京大学の後藤博士によって発明された論理回路素子）を使ったパラメトロン式 ARQ 装置を開発、実用化した。この ARQ 装置は、時分割二重に誤字訂正機能を付加したもので、これを二つ合わせて時分割四重としても使えるようになっている。従来の TZ-2 形電子管式 ARQ 装置に比べて、消費電力 1/4、床面積 1/3 と極めて高性能なものであった。

出典：KDD 社史